

「経皮的●膿瘍ドレナージ術」について

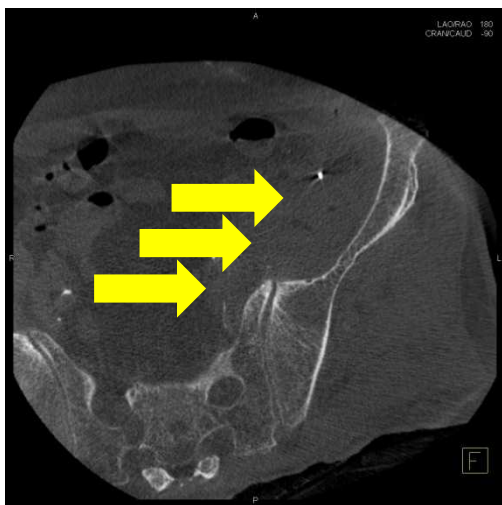
【技術の概要】

・経皮的に●膿瘍を穿刺し、カテーテル留置の上、排膿を行う。

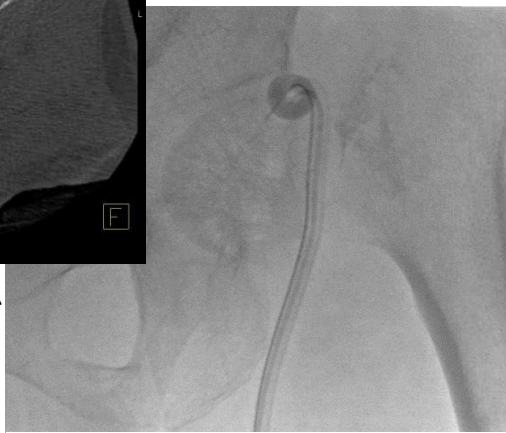
【対象疾患】

・●膿瘍

平成25年社会医療診療行為別調査によると、年間対象患者は△△△人程度と考えられる。



術前の●膿瘍の確認



カテーテル留置

【既存の治療法との比較】

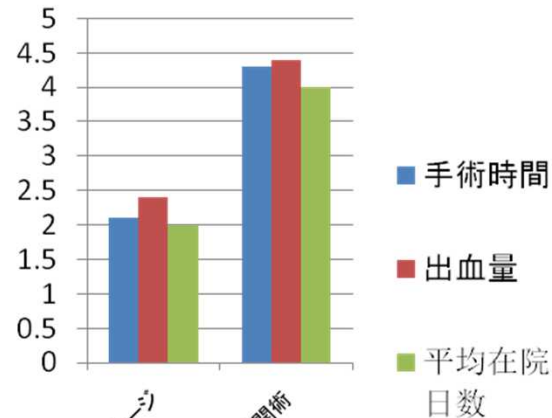
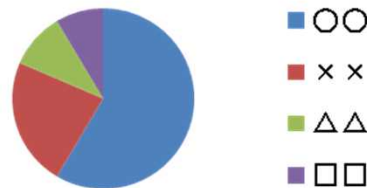
・海外の研究において、術後のQOLが～程度改善したと報告されている。

・●膿瘍切開術と比較して手術時間の短縮や出血量の低減が可能であり、低侵襲である。

・合併症として□□などがあげられるが、●膿瘍切開術と比較して発生率が低く安全である。

・●膿瘍切開術と比較し、抗菌薬の投与量減少、入院期間の短縮が期待される。

合併症の発生頻度



【診療報酬上の取扱】

・K手術

・◎◎点

(経皮的○○術と比較して、同程度の難易度の手術と考えられるため。)